

算命学中庸

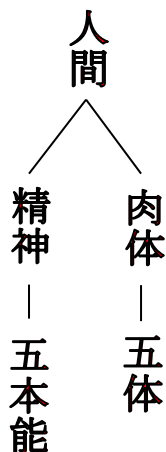
【初年】 1 2 回目

1 2 回目の授業はこのページからです。

授業科目 【本能論】

・【初年】 1 2 回目 【本能論】 01

⇒ ほんのうろん 本能論はこれから先、重要になってきます。



昔の中国では、人間は肉体と精神を備えていると考えました。

「五体満足」という言葉がありますように……

『人間の肉体は五体で成り立っている』ということがわかったのです。

ごたい 五体とか、ごぞう 五臓とか、ごかん 五感とかについては、あと 後で詳しくお伝えします。

肉体が五体で成り立っているのなら、精神も五つのもので成り立っているのではと考えて、人間の精神を研究して行きましたところ、人間には五つの本能がそなわっていることがわかりました。

肉体は五体で成り立ち、精神は五本能から出来ている。
という結論にいたりました。

ここで論じている「本能」は『人間の精神は五つの本能で構成されている』という意味の本能を意味します。

人間の精神は、五本能で構成されている

一般に本能といえは、食欲も本能、性欲も本能、そのようにいいます

お腹が減れば食欲が起こります。食欲とか性欲というのは肉体の欲求で、精神の欲求とは異なると考えています。ここでいうところの本能とは違うものと考えています。

人間には五つの本能があるということについてですが、
最初につきのように考えておいてください。

どなたでも、五つ本能すべてをもっていると考えています。

人は誰でも、五本能すべてを備^{そな}えている

魅力本能（みりよくほんのう）

攻撃本能（こうげきほんのう）

守備本能（しゅびほんのう）

習得本能（しゅうとくほんのう）

伝達本能（でんたつほんのう）

五本能

それらの本能を『十大主星』であらわすと、

魅力本能の星 ⇒ （陽）^{ろくぞんせい} 禄存星 （陰）^{しろくせい} 司禄星

攻撃本能の星 ⇒ （陽）^{しゃきせい} 車騎星 （陰）^{けんぎゅうせい} 牽牛星

守備本能の星 ⇒ （陽）^{かんさくせい} 貫索星 （陰）^{せきもんせい} 石門星

習得本能の星 ⇒ （陽）^{りゅうこうせい} 龍高星 （陰）^{ぎょくどうせい} 玉堂星

伝達本能の星 ⇒ （陽）^{ほうかくせい} 鳳閣星 （陰）^{ちょうじょせい} 調舒星

⇒ 最初に「魅力本能」から説明します。

魅力本能 ⇒ 人から好かれない、よく思われたい本能です。

人から好かれない、よく思われたい、あるいは、愛されたいなどを簡単にいえば「相手から好かれない」とか、
「相手からよくおもわれたい」という本能です。

どなたでも、あの人からはよく思われたい、この人には好かれない、という本能が存在しているはずです。

「たとえば」外見的なことでいえば、女性だとお化粧するとか、身だしなみをととのえる、とかありますよね。
男性でもそうでしょうが、それはなんのためにやるのか
といえば、魅力本能がさせている場合が多いはずです。
人からどう思われても構わないのであれば、身だしなみは乱れてきます。

「たとえば」着るものを買ったときでも、なるべく自分に似合う服を選びたい、身につけたい、というのも魅力本能のひとつです。

外見的な人間関係でいえば、嫌いな人に出会っても挨拶ぐらいすることは多いでしょう。

場合によれば、お世辞を言ったりして、相手をいい気分にさせたりとかもあるでしょう。

本当は嫌いな人でも「こんにちは、会えてよかったわ」
そのような挨拶をすることがあります。

なぜ、そのような言動に出るのかといえ、人間の気持ちは、好かれない、よく思われたいのです。

つまり、「人に嫌われたくない」という本能が存在しているためと考えています。

魅力本能が強い人もいれば、弱い人もいます。

どの本能が強いとか、弱いとかは、宿命を出して観ていくようになります。

生年月日から、宿命をだす方法は^{あと}後で勉強します。

『本能論』は、そのまま性格判断につかっていくようになります。

五つの本能は、それぞれが特有の質をもっているということを理解していただきたいのです。

人から好かれるには、どのようにすればよいのかといえ
ば、人様に親切にするのが一番でしょう。

人に意地悪をしていたら、相手からよく思われることは
ないはずです。

生年月日をもとに宿命をだしたときに、この人物はとて
も魅力本能が強い人だとか、魅力本能が弱い人だとかを
観ることができます。

それを基点にして、このような仕事に向いているとか、
向いていないとか、そういう占いに発展していきます。

〔たとえば〕魅力本能が強い人は、人に親切にする傾向
がありますから、その質を活かした仕事ということとい
えば、サービス業はその分野です。

また、魅力本能の十大主星は〔禄存星・司禄星〕になり
ますから、お金・財をあつかう分野も向いています。

☞ 魅力本能の星 ⇒ (陽) ^{ろくぞんせい}禄存星 (陰) ^{しろうくせい}司禄星

⇒ 攻撃本能

攻撃本能 ⇒ 攻撃しようとする本能です。

攻撃本能は、その言葉のとおり、攻撃しようとする本能です。人を攻撃しようとする攻撃本能は、生れつき誰にでもそなわっていると考えています。もちろん攻撃本能が、すごく強い人もいれば、弱い人もいます。

⇒ 最近では表舞台に登場しませんが、田中眞紀子さんは、攻撃本能がすごく強い人です。〔生年月日 1944(S19)-1-4〕

車騎星は攻撃本能（陽の星）

✽ 田中眞紀子 1944-1-14

宿命（1）田中眞紀子

	丁	乙	癸				8 丁丑
					車騎星	天南星	18 丙子
申	丑	丑	未	車騎星	車騎星	貫索星	28 乙亥
酉	癸	癸	丁	天庫星	石門星	天庫星	38 甲戌
	辛	辛	乙				48 癸酉
	己	己	己				58 壬申
							68 辛未
							78 癸酉

攻撃本能の星

攻撃本能がよいとか、悪いとかの話しは別です。

攻撃は、相手をなぐったり、蹴ったりする、それだけが攻撃ではありません。^{こうとう}口頭で攻撃することのほうが多いですね。

ネットでの誹謗中傷とかは多いですよ。

相手を言葉で非難する、悪口を^{かげ}蔭でいう、それも全部攻撃です。生まれてから死ぬまで、人と喧嘩をしたことがないという人は、いないはずですよ。

親子喧嘩でも、夫婦喧嘩でも、友達との喧嘩でも、兄弟喧嘩もそうですが、相手のことが自分の気にそわないと思えば、何らかの手段で相手を攻撃する。これは誰でも経験があるはずです。

もちろん、攻撃しないで、我慢するときもあるでしょうが、攻撃したことも、必ずあったはずです。

対人関係で、なにか面白くないと思えば、相手に文句をいうこともあるでしょう。それも攻撃ですよ。

算命学では、人間に攻撃本能がある以上は、世の中から争い事（闘争）、あるいは、戦争が無くなることはない。と考えています。

攻撃本能は、相手を攻撃しようとする本能なのですが、これをもう少し正しく理解しておく必要があります。

チョット考えてみて頂きたいのですが……相手を批判したり、相手に文句をいったりして、相手を攻撃するのはなぜでしょうか？　なんで攻撃したくなるのでしょうか。

〔たとえば〕自分が、気に食わないと思っている人がいて、その気に食わない、嫌いな人が、なにか悪いことをしたら、待っていましたとばかりに、その人を攻撃したりするということはあり得ることです。

なんのために、相手を攻撃するのでしょうか？

あるいは、相手が間違ったと思ったら、「貴方そのところ間違っている」と批判したりすることもあるでしょう。相手が間違ったことをしたと思って、「それ違うでしょ」と注意したとき、相手がその間違いを認めたら、あなたはどのように思いますか？

〔自分が相手よりも優位に立った〕というふうな感情を抱いたことってありませんか……。

〔自分が正当だった、自分のほうが正しかった〕ということを経験したとかです。

それが本当の証明になるのかどうかは別として、そのような気持ちになってくることもあるでしょう。

それゆえに算命学では、相手を攻撃する行為というのは、基本的に「人に勝ちたいからだ」「負けたくないからだ」このように考えています。

攻撃本能は、攻撃しようとする本能ですが、そこに内在されている思い・感情というのは……。

相手に勝ちたい、相手に負けたくない

勝ちたい、あるいは負けたくない、こういう本能が最初から人間に備わっている。と考えています。

結局は、自分が勝ちたいのです。

相手には、負けたくないのです。

自分が嫌いな人には、特に負けたくないのです。

参考・感情「喜怒哀楽や好悪など、物事に感じて起こる気持ち」

それゆえに、攻撃本能がすごく強い人は、すごく負けず嫌いになります。

攻撃本能が弱い人は、そういうことに無頓着です。

ゆったりとおおらかな人になって行きます。

だからといって、まったく攻撃本能をもっていない人はいないはずです。

そうしますと、攻撃本能というのは、言葉を変えれば、

闘争心

闘争心のようなものだと考えてもよいのです。

攻撃本能＝闘争本能といってもよいですね。

通常、相手に勝ちたいとか、相手に負けたくないとか、思ったときに、ただ批判するとか、攻撃するだけでは、やり方として、あまり上手とはいえないでしょう。

相手の悪口をいえば、自分の勝ちかといえば、そういうやり方では、うまくいかないはずです。

相手に本当に勝ちたい、その人よりも上位になりたい、負けたくない、と思ったら、自分自身はどういうことをするのでしょうか？

仕事でも、勉強でも、どんなことでも、相手に負けたくなかったら、どうすればよいのでしょうか？

より、努力するはずです。相手に負けたくなかったら、もっともっと頑張ろうとするはずです。

〔たとえば〕スポーツ選手が、試合で対戦相手に負けまいとして全力を出します。スポーツで戦っている選手は、相手が憎いから、という思いで戦っているのではないはずです。

人間は相手と競い合いになって、相手側のほうにも、対戦相手の自分に負けたくないという気持ちがあるのがわかると、よりいっそう相手に負けたくない。という気持ちが強くなるわけです。

その強い気持ちが、一生懸命に相手を打ち負かそうとするのです。

その一念は、相手のことが、嫌いだとか、憎いとかで攻撃するということではないはずです。

相手に負けたくないから、もっと練習して頑張ろうという気持ちになるのは当たり前の話です。

☞ 仕事でもそうです。

会社に入って、同期の人に負けたくないと思えば、より一層頑張って働こう！ 努力しよう！

仕事の勉強を一生懸命やろうと、なるはずです。

それゆえに、攻撃本能は結果的にその人の「行動力の^{みなもと}源」となっていくものです。

攻撃本能 ⇒ 行動力の源

これらのことからして、攻撃本能は相手を攻撃する本能だと思い込みやすくなりますので、『行動の本能』というふうに、置き換えてみてはいかがでしょう。

相手を攻撃するだけが、攻撃本能の姿ではありません。

通常は“もっと一生懸命がんばろう”そのような思い、心持ちとなって、あらわれることのほうが多いのです。

攻撃本能の強い人は、頑張り屋さんで、働き者になっていきます。

もっと頑張ろうとする気持ちを高めて、行動力の源にもなる本能です。

☞ **攻撃本能の星 ⇒ (陽) 車騎星^{しゃきせい} (陰) 牽牛星^{けんぎゅうせい}**

➡ 守備本能

守備本能 ⇒ 自分を守ろうとする本能です。

攻撃本能よりも、守備本能は理解しやすい本能だと思いますが、これも字のごとく、自分を守ろうとする本能のことです。

自分を外敵から守りたい、さまざまなことから自分を守りたい、このような本能は、どの人のなかにもあるはずです。

〔たとえば〕自分の^{からだ}身体が、朝起きたら調子が悪くて、熱があるとしたら、薬を飲んだり、病院に行ったりと、もっと悪ければ、仕事を休んだりするはずです。
なんのために……そのような行動を取るのかといえば、自分を守るためです。

相手を攻撃しようとする本能が人間にそなえられています。それならば、相手の攻撃から、自分の身を守ろうとする本能があるのも当然です。それが守備本能です。

「たとえば」人から批判をされた、悪口をいわれた、とすれば、自分を守るために、言い訳したくなりますよね。

「あなた、それ間違いよ」といわれたら、『でもそれはこういう理由で、こうなったんです』と、相手にわかって欲しくて、言い返したりするのは、守備本能がさせています。守備本能が強い人、弱い人もいますが、守備本能が無い人はいないはずです。

本来は、自分を守ろうとするものが守備本能ですけど、
発展していくと



自分の家族をまもりたい

友人をまもりたい

財産をまもりたい

自分の立場をまもりたい

自分の会社をまもりたい

国をまもりたい

守備本能は発展して行きます。

もっと発展していけば、地球を守りたい、世界を守りたいと、いうふうになって行く人もいると思います。

いま
現在はかなり縮小したようですが、一時期は、オウムの
信者の人たちがマンションを借りると、まわりの住民が
反対運動を起こしたりしました。

あるいは、放火が多発したりすると、住民が交替で夜回
りをしたりします。

不審者が出没して、事件があつたりすれば、町内会費や
マンションの組合費で、防犯カメラを設置したりして、
さまざまな対策を講じようとしています。

自分の生活をまもろう。

自分の地域をまもろう。

というふうに発展して行くのも当然の話です。

そこまで含んで守備本能なのです。

☞ 守備本能の星 ⇒ (陽) 貫索星^{かんさくせい} (陰) 石門星^{せきもんせい}

📖 習得本能

習得本能 ⇒ 知識を習得しようとする本能です。

習得本能は、習得という言葉の通り、知識を習得しようとする本能のことです。

〔たとえば〕 皆さんは、いま、算命中庸学を勉強されていますが、それも習得本能が現れているひとつです。

なにもこれは、勉強という姿でなくてもです。

〔たとえば〕 朝起きてテレビをつけて、ニュースを観て、世の中でどんな事が起きているのか〔興味がある〕……

〔知りたい〕 というのも習得本能です。

もっと興味があることに関しては、より深く調べようとすることもあるでしょう。

知識を習得しようとする本能というと、少し堅苦しく聞かれますが、簡単な言い方をすれば、ようするに……、

知りたい、学びたい

という本能のことだと考えればよいと思います。

習得本能が強い人は、好奇心が旺盛な人になります。

自分の興味のあることが出てくると、すごく知りたい、もっと深く知りたい、その先が知りたい。というふうになります。

習得本能が弱い人は、物事に無関心な人になって行くわけです。

ただし、まったく習得本能がない人はいないはずです。

そして、まったく関係のないことまで、知りたがる人もいますよね。

こちらとしては、いいたくないのに「あなたどうしてたの？」とか、「最近ご主人どうしてる？」とか、それも習得本能のあらわれのひとつです。

この本能が学問的なほうに向けられるのか、世間一般のミーハー的なことに向けられるのか、それはわかりませけど、両方とも習得本能のあらわれです。

生まれてから死ぬまで、人にもものをたず訊ねたことはない、という人はいないはずです。知らないことがあったり、

わからないことがあると「これはなんで」とか、「どうしてとか」まわりの人に訊^きいたり、自分で調べたりすることはありませんよね。

そのこと自体が習得本能をもっている証拠です。

そのようにして、物事を知ったなかで、学んだなかで、それが知性となり知恵となって、自分に蓄えられます。それゆえに“知恵の本能”とも呼ばれます。

占うときには、習得本能という言葉よりも『知恵の本能が強い人ですね……』そのような言い方をしたほうが、わかりやすい場合も多いのです。

☞ 習得本能の星 ⇒ (陽) 龍高星^{りゅうこうせい} (陰) 玉堂星^{ぎょくどうせい}

⇒ 伝達本能〔最後の五つ目〕

伝達本能 ⇒ 自分の知識・経験・考え・気持ちを伝えようとする本能です。

知識を習得したい本能があるなら、自分が習得した事柄を誰かに伝えたい、というようになるのは当然でしょう。それが伝達本能です。

知識といいますと、大げさに聞こえるかも知れませんが、身近なところでいえば、[たとえば] 家に帰ってから、家族に、今日はこんなことがあったとか、あそこへ行ったら、こうだったとか、話をしたりしますよね。

久し振りに友達に会ったとしたら、その友達が別に何も訊^きかなくても、「私、このあいだ病気してこうだったのよ」とか、「ここに遊びに行ったら、すごく楽しかった」とか話したり、伝えたりするでしょう。

いま 現在、自分に悩みがあれば、その悩みを誰かにわかってもらいたい。このことで苦しんでいるとか、悩んでいるとか、誰かに相談したりすることもあると思います。

それらは全て、伝達本能がなせる技であると、算命学では考えています。伝達本能が強い人は、おしゃべりな人になります。伝達本能が弱い人は、無口な人になりますけど、それでもまったく伝達本能が無い人はいないはずです。

また、しゃべって伝えることだけが、伝達本能ではありません。書いて伝えるとか、メールという伝達方法もそのひとつですし、身振り手振りで伝えることもあるでしょう。訊かれたこと、いわれたことに、返事をしないという姿で、自分の気持ちを伝えることもあると思います。

画家が絵を描いています。

それはなにかを伝えようとして、絵を描いているわけです。心の苦しみだとか、人間の喜びだとか、それを絵に表現して、情景なり、姿・形を、さまざまな描き方で、感性に伝えようとしているはずです。

音楽も絵画とおなじように、情景が浮かんで来る歌唱や旋律、それらも伝達の一種です。

☞ 五本能の5つ終わりました。

誰かに好かれないという「魅力本能」

相手に負けたくないという「攻撃本能」

自分を守ろうとする「守備本能」

なにかをまなび習得する「習得本能」

誰かに伝えようとする「伝達本能」

これらの五本能は、どの人にも必ず備わっています。

逆にいえば、五つ以外の本能は、人間には備わっていない。と算命学では考えています。

自分には、この本能は備わっていないようだけど、そのようにおもう本能が五つのなかにあるとか……あるいは五つ以外に、私はこういう本能をもっているようです。

というのがありますか……？ ないとおもいますよ。

あるとすれば、それは特別な感性・感覚といえます。

〔たとえば〕第六感のようにです。

本能論でいえることは、五本能のどれも無いということとは、絶対に無いということです。

「自分には、五本能のなかのどれもない」といいながら、行動している人がいたとすれば、それは精神異常です。

算命学は、人間の精神には五本能が備わっていますよ。
とっているわけです。

1つでも欠けている人がいるのであれば、そのような人を算命学では精神異常と呼びます。

それは五本能のなかの、どれか1つがうまく機能しない状態です。

⇒ 皆さんと一緒に、ちょっと考えていきたいと思います。

「仕事」は何本能がさせていると思いますか……？

仕事を成功させたいと頑張るのであれば、それは攻撃本能です。

人に負けたくない。勝ちたい。それも攻撃本能です。

出世を目指す競争ではなく、家族や子供の生活を守るためであれば、それは守備本能です。

おもしろいから、好きだからこの仕事をやる、といったら、習得本能です。

会社で人気者になりたいと思って、いろいろ頑張っている、それは魅力本能です。

そう思って、張り切っている人もいます。

知識を伝えたいと思って、その仕事を頑張るのは、伝達本能です。〔たとえば〕作家とか教師の仕事は、伝達を発揮している場合が多いですね。

☞ 結婚はどうでしょう。

“結婚したい”それは何本能がさせるのでしょうか？

好きだから一緒にいて大切にしたいのであれば、魅力本能といえるでしょう。

老後の不安・淋しさを紛らわせるためであれば、守備本能です。

攻撃本能がもつ、人に負けたくない、勝ちたい、とする本能を発揮して、勝てば自分のプライドが満足します。

攻撃本能には、プライドや名誉という意味もあります。

もう少し先に行ってから勉強します。そのとき説明します。

〔たとえば〕ひとりの女性がいます。

社長と結婚すると自分の地位も高くなるということで、相手の職業や家柄、学歴に惹かれて、プライドを満足させる結婚とか、名誉を得るための結婚であれば、それは攻撃本能がさせたものです。

男性で上司のお嬢さんと結婚するとかは、これとおなじ意味合いです。

この人と一緒にいると勉強になる、いろいろ教えてくれるのでためになる。ということなら習得本能ですね。

習得本能が作用したということになります。

先に行く勉強しますが、自分の子孫になにかを伝えたいというのも伝達本能です。

なにかを伝えるために子供を生みたい。というのは伝達本能になります。

朝起きてから夜眠るまで……すべての自分の行動を振り返ると、必ず五本能のどれかが、それをさせているはず
です。

朝起きて顔を洗います。これは身だしなみということで、魅力本能です。

汚い顔で外に出かけて、人に変に思われちゃ嫌だとか、仕事に行くのであれば、チャンと身ざれいにして行かないといけませんよね。それは魅力本能です。

朝起きてテレビをつける、新聞を読む、習得本能です。テレビをつけて、天気予報で雨になると報道しているとなれば、傘をもって出掛けなきゃと、いう話になったら、それは守備本能ですよね。

土砂降りの雨のなかを、傘をささないで、濡れそぼって歩いてもよいのです。でも、ずぶ濡れになって風邪引いてしまうと困るし、自分の健康を守るために傘をもって出かけます。となれば守備ですね。

でも、土砂降りなのに、傘をささないで歩いていたら、変な奴だと思われちゃうかも知れないし、せっかく身ざれいにオシャレしたのがダメになるとか、そうすると、守備と魅力の両方の理由があるかも知れないですね。

朝起きて、朝ご飯を食べるというのは、これは健康維持の守備本能です。

今日、仕事に行くのに、体がもたないから、チャンと食べて行こう。これも守備本能です。

その食事の内容とか、栄養の摂り方に興味があって食べるとか、人様からの頂き物が、どんな味が食べてみたいというのであれば、習得本能が食べさせるわけです。

わんこ
椀子そば大食い大会みたいなのは攻撃本能です。

あれは食べたくて、食べているわけじゃないですよ。

相手に負けたくないから、一生懸命に食べるわけです。

どんな些細なことも、人間のとる行動は、必ず五本能のなかのどれかが、そうさせているのです。

ご自分が朝起きてから、夜眠るまでの行動のすべてを、「これは何本能のせいでやっているのだろう」と、いうふうに考えてみると、必ず、この五本能のうちのどれかが、させているということに気付かされます。

しかし、すでに習慣になっていて、無意識のうちにやっている。
ということもあるでしょう。

そのことにしても、なにかしらの理由があるはずです。

〔たとえば〕山田さんであれば、山田さんの生年月日から宿命を出して観たときに、この人は五本能のなかで、どの本能が強くて、どの本能が弱い、ということがわかります。

⇒ 五本能も（木火土金水）の五行が決まっています。

これについてはあとで詳しく勉強しますが、守備本能は木性です。

攻撃本能は金性、魅力本能は土性、伝達本能は火性、
習得本能は水性になります。

なぜ、こういう五行になるのか、そこには理由があります。

それは出てきますから、そこで勉強します。

【初年】 1 2 回目【本能論】 終わります

つぎの授業 ⇒ 【初年】 1 3 回目【性格と本能】